

飛騨市学園構想 SUPER COMMUNITY SCHOOL



56

みんなが育て みんなが育つ 魅力あるまち

◆初めてのスパイスカレー体験

「まずは目の前にあるスパイスをかじってみてください」と言うのでざわつく教室。机に並ぶ約20種類のスパイスはほとんどの高校生にとって未知の世界。好きになるかどうかは別としてまずは知ることから始まります。スパイス一粒を手に取り香りを確かめて恐る恐るかじります。



初めてのスパイスを体験する生徒(吉城高校)

世代を超えた学び合い—スパイスから始まる「食」との向き合い方

普段は、「飛騨スパイスカレー研究所」というお店を営んでおり、昨年、吉城高校・飛騨神岡高校の生徒とカレーを作る機会をいただきました。吉城高校ではゴールを「文化祭でのカレー販売」に設定。夏休みに生徒たちと試作を行い、飛騨産有機野菜を使った「柏葉スパイスカレー」を販売し、240食を完売しました。一方、飛騨神岡高校では、「フードデザイン」専攻のクラスにて、神岡産の有機野菜と飛騨地鶏を使った2種類のカレー作りを通し、飛騨の農業の現状や食環境と向き合いました。



スパイスカレー作りの様子(飛騨神岡高校)

◆食環境の源流から河口部へ

このように飛騨スパイスカレー研究所では、「食との向き合い方」に重きを置いています。スパイスという未知な食材の実態を知ることや、生産者の思いや取組み、安全性など食環境の源流(上流部)への関心を育むことがねらいです。食環境の源流に位置する飛騨だからこそ学べる食の実態があります。源流で得た学びが河口部(それぞれの食卓)に広がっていくことで日本の食環境は本来の豊かさを取り戻す、スパイス探究を通じて、そんな食の未来を描いています。

飛騨スパイスカレー研究所

情報発信

ホームページ

Facebook



問 学校教育課 ☎ 0577-73-7494



雪国でも発電! 多雪地帯に適した太陽光の工夫

飛騨市のような多雪地域では、**屋根の積雪が発電効率を大きく下げる課題**があります。近年は、雪に強い「融雪機能付きパネル」や「壁面設置型パネル」など、**寒冷地向けの技術が進化**しています。融雪パネルは内部の発熱で雪を溶かすことで安定した発電を維持できるほか、壁面設置は積雪の影響を受けにくく除雪の手間を軽減します。ただし、**建物の形や向きによって適した設置方法は異なる**ため、事前の専門的な確認が大切です。こうした工夫により、多雪地域でも再生可能エネルギーの導入が進んでいます。



融雪機能付き太陽光パネル
(出典:長州産業株式会社)



太陽光パネルの壁面設置
(出典:スワロー工業株式会社)

市では皆さんの不安や疑問にお答えする
「住宅用太陽光発電設備設置事前相談」を行っており、
導入に向けた最初の一步をサポートしています。ぜひご活用ください。

問 環境課 ☎ 0577-73-7482

まめなかな

「検診の日」をつくろう
～保健師の願い～

私は以前、総合病院で看護師として勤務していました。その中で、多くのがん患者さんに出会いました。検診でがんが発見され、早期治療によって社会復帰を果たされた方もみえました。一方で、「もし検診を受けていたら」「もう少し早い受診だったら」と思ったことは、一度や二度ではありませんでした。

がんと聞くと「怖い病気」というイメージがある方もみえると思います。確かに令和4年の日本の死因第1位は悪性新生物（がん）です。今

日、2人に1人が生涯において一度はがんにかかるという推計されており、誰でもなる可能性のある病気です。しかし、がんは早期発見・早期治療、治療法の進歩もあり「不治の病」から「付き合っていく」病気になりつつあります。

まだ若いし元気だから、「自分は大丈夫」と思い、仕事や子育てなどで忙しいことを理由に、検診を後回しにしていますか。検診は健康な生活を送るためのステップです。がん検診の対象者は症状のない「健康」な人です。

がん検診の目的は症状が出ないくらい早期のがんを発見し、治療することで、がんによる死亡率を低下させることです。がんは早期の場合、自覚症状がない場合も多いです。

また、がん検診は一度受けて異常がなければ「よし」ではありません。検診を定期的に受けることが大

切です。定期的に受けることで早期のがんが発見できることも多いのです。

市では毎年がん検診を実施しています。来年度の詳細な受診対象や検査内容は1月に掲載する市のホームページや、各世帯へ発送する住民検診申し込み票の同封物に掲載します。より多くの方に受診していただきたく、今年度から一部受診料を下げています。

健康はわたしたちの生活の基盤です。飛騨市の保健師は、「市民の皆様の健康を少しでも守りたい」と思い日々活動をしています。

自分の健康を守るために「検診の日」を設けてもらいたい、そう心から願っています。

問 保健センター

☎0577-73-2948



<その69> はじめませんか？

もしもの時のために

一人暮らしをしていると、体調が急変した時に不安を感じることがあります。すぐに家族や友人に頼めない時、自分一人でも対応できるように日頃からの備えが必要です。

例えば、急に体調が悪くなった場合、救急車を呼ぶべきか、しかし深夜だとサイレンが近所迷惑になるのではと迷う時は、電話で『救急相談センター（#7119）』を利用することができます。医師や看護師などの医療関係者が対応し、救急車を呼ぶべきかの判断や医療機関を案内して

くれます。

また、自宅での療養を余儀なくされた場合にも自分ですぐに調理できるレトルト食品や冷凍食品、ミネラルウォーター、体温計、解熱シート、鎮痛剤を常備しておいたり、自宅からすぐ行ける医療機関の診察スケジュール（受付時間・休診日など）や電話番号を事前にメモしておくとういでしょう。

最悪の場合として、病気や事故などで意思表示ができなくなったり、突然亡くなるということも全くないとは言いきれません。そんな時に、警察や消防、医療機関やあらかじめ指定した人からの照会があった場合、事前に登録した情報をあなたに代わって伝えることができる制度「わたしの終末しんらい登録」があります。

登録できる内容としては●緊急連絡先 ●終末期の医療やケアなどの

希望 ●通院先、アレルギー情報 ●臓器提供の意思表示 ●遺言書、エンディングノートの保管場所 ●死後事務委任、葬儀等の生前契約情報 などです。

市内にお住まいの65歳以上の方で、社会福祉協議会が配布するエンディングノートを作成済みの方や作成を希望する方であれば、どなたでも登録できます。安心材料の一つとしてどうぞお気軽にご利用ください。

わたしの終末しんらい登録

お申し込みは下記まで

問 飛騨市終活支援センター

（飛騨市社会福祉協議会内）

☎0577-73-3214